

テレビカーの思い出

加藤 梅崎さんは京都で大学時代を過ごされたとうかがっています。当時の京阪電車について、何か思い出はございますか。

梅崎 私の学生時代は昭和37(1962)年から41(1966)年ですから、もう50年前のことになります。当時、京阪電車にはテレビカーがありましたね。

加藤 テレビカーは昭和29(1954)年にテレビ付き特急列車が運転開始したのが最初です。まだ家庭にテレビが普及する以前のことで、たいへん人気を集めました。カラーテレビになったのは、昭和46(1971)年に導入した旧3000系の特急車両からです。梅崎さんが乗られた頃は、白黒テレビの時代ですね。

梅崎 京都に下宿していましたので、京阪電車を利用するのは大阪などに行く時ぐらいで、それほど多く利用したわけではありませんが、テレビカーは他社にはない、すごいサービスをする会社だなと思っていました。それと、当時京阪電車は三条駅まで鴨川の川沿いを走っていました。私もその光景の印象が強いのですが、古くから京都にお住まいの方にうかがうと、鴨川の西側から南座方面を見た時に、京阪電車が地上にあった時の方が景色としてアクセントになって良かったと言う人が今でも結構いらっしゃる。電車が地下化されたことで、道路交通も整備され、景観もすっきりしたけれど、人の記憶に残る風景はまた違うのだなと思いました。

加藤 そうですね。電車が地下に潜ると、道路交通は確かに良くなりますが、鉄道の存在感が小さくなってしまいます。地上を走っている時は言わなくても視覚で認識してもらえますが、鉄道の利便性や環境へのやさしさについて、今は我々が積極的に発信していかないとなかなか認識してもらえないと感じています。

「第2の創業ステージ」を迎えて

加藤 京阪電車は渋沢栄一翁が創られて、今年で開業105年目を迎えますが、少子高齢化など、当社を取り巻く環境は大きく変化しています。過去の延長から決別し、社会の変化に機敏に対応するという意識を持って全員がチャレンジし、京阪グループの次の100年の歴史を創っていかねばなりません。私はこれを「第2の創業ステージ」と称しています。

梅崎さんは、帝都高速度交通営団(営団地下鉄)から東京地下鉄株式会社(東京メトロ)へと民営化する局面で社長を務められ、社員の皆さんの意識改革に尽力されたとお聞きしました。どのように取り組まれたのでしょうか。

梅崎 営団地下鉄は、戦後の復興から日本が経済成長をしていく過程で、路線網を整備して輸送力を整えるというのが大きな使命でした。そういう使命できたものですから、運営も、大量の通勤・通学輸送を安全で安定的に行うことが自分たちの最大の使命で、これさえ全うすれば使命を果たしていると思っていた職員が多かったです。民営

